



来年度の防除計画を立てよう (リンゴ害虫編)

【指導員】 果樹課 大和屋 尚享



▲【写真1】黒い点がカイガラムシ

今年度収穫した果実の品質や病害虫被害の状況などを振り返り、来年度に向けた対策を考えておくことが大事です。そこで今回は、今年度気になった害虫被害とその対策や注意点について紹介します。防除暦と照らし合わせ、来年度の防除計画と農薬注文にお役立て下さい。

【カイガラムシ類】
年々被害が増えております。自園地の状況はどうだったでしょうか。【写真1】はカイガラムシ被害果ですが、生食用としてJAに出荷されたものです。この果実の扱いは「格外」になります。【写真2】は、7月上旬頃の写真で、果実に赤い斑点が見られます。生産者から、「これは病気ではないか？何という病気ですか？」とよく聞かれますが、これもカイガラムシ被害果です。



▲【写真2】カイガラムシ被害果

【カイガラムシ類への対策】
芽出し前にハーベストオイル50倍を散布する。(1000倍では効果がありません！)
芽出し前のオイル50倍散布が最も有効ですが、園地に雪が残っていると散布は困難です。そうした場合は、芽出し10日後に「アプロードフロアブル」を1,000倍で散布してください。多発生の場合は6月下旬〜7月上旬に、同じく「アプロードフロアブル」を1,000倍で散布しましょう。



▲【写真3】薄い赤色の点がナミハダニの越冬成虫

【ハダニ類】
今年度は秋口に発生が増え、慌ててダニ剤を追加散布した生産者が多かったように思います。【写真3】はナミハダニの越冬成虫です。ナミハダニはリンゴのがくあぶ(※1)や粗皮下で越冬しますが、写真の果実は生食用としてJAへ搬入されたものです。
(※1)「がくあぶ」：リンゴのお尻のくぼみ
ハダニ類への対策
薬剤での防除は、発生に合

芽出し前の防除は越冬世代、6月の防除は第1世代対策となりますが、芽出し前の防除が最も重要です。なお、カイガラムシは枝や幹で越冬していますので、樹体をめがけて散布しましょう。

芽出し前の防除は越冬世代、6月の防除は第1世代対策となりますが、芽出し前の防除が最も重要です。なお、カイガラムシは枝や幹で越冬していますので、樹体をめがけて散布しましょう。

合わせてダニ剤を散布する場合があります。園地の発生状況を良く観察しましょう。
よく、「春先にハーベストオイルを散布したのに：」や「ダニ対策はオイルを散布すれば良いか？」と聞かれます。しかし、オイルの100倍散布はリンゴハダニ(※2)には有効ですが(枝上で卵で越冬している)、ナミハダニ(※3)には効果がありません。
3)には効果がありません。
せっかくなのでオイルを散布しても、自園地で問題となっていないダニがナミハダニだとしたら、薬剤費はもろろん、散布労力が無駄になってしまいます。自園地で問題になっていないダニの種類をしっかりと把握しましょう。
(※2) リンゴハダニ：赤色で葉の表裏どちらにも寄生します
(※3) ナミハダニ：黄色透明で葉の裏に寄生します

◇ ◆ ◇
自園地をしっかりと観察することが一番大事です。今年度の発生状況を思い出し、来年度はしっかりと防除対策できるようにしておきましょう。